

e ラーニングを導入した看護師等養成所の専任教員養成講習会の
実施方法に関する検討会

第2回 議 事 次 第

日 時：平成24年2月20日（月）

15：00～17：00

場 所：経済産業省別館1012

議 題

- 1 e ラーニングを適用する教育内容の範囲について
- 2 その他

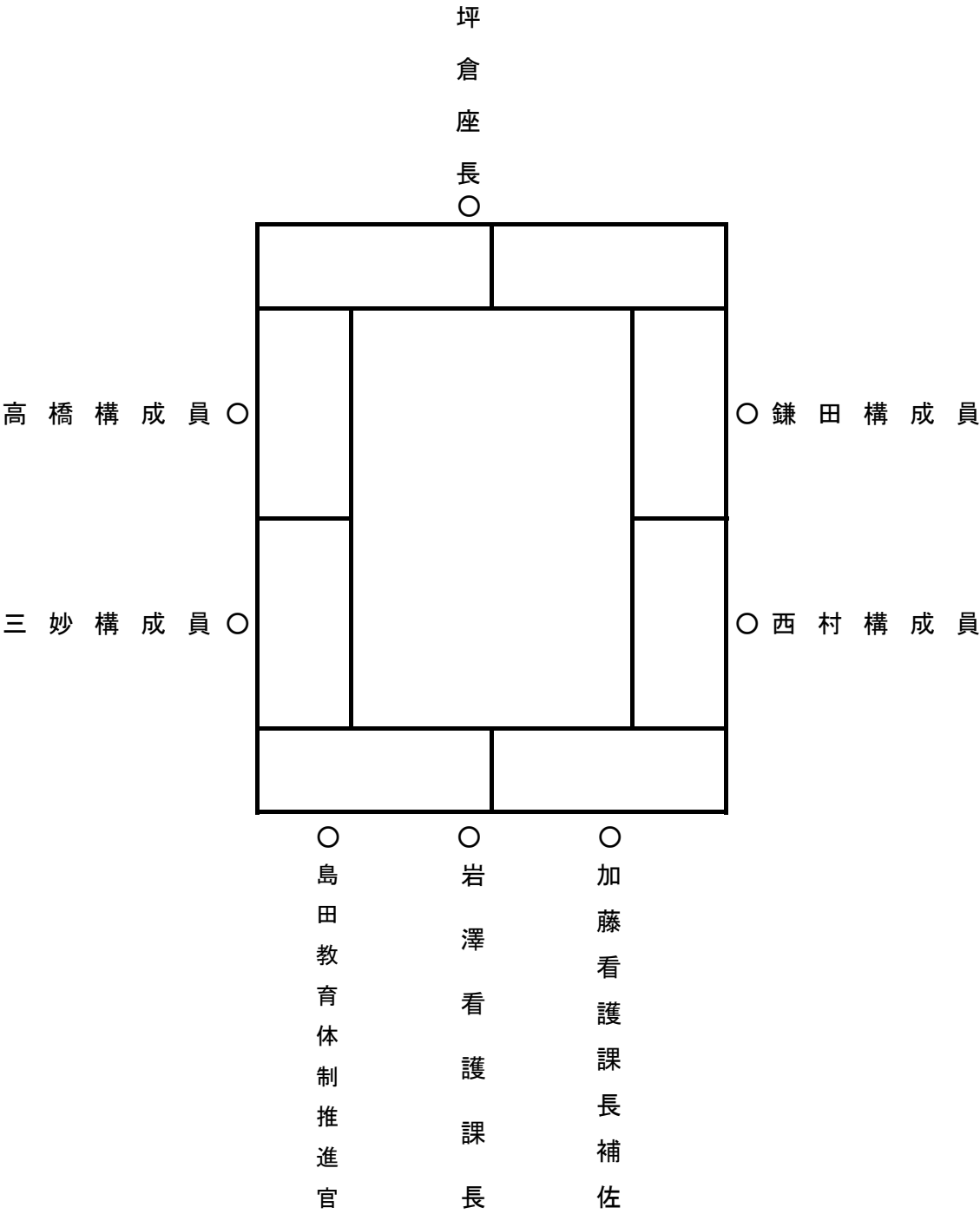
【配付資料】

- 資料1 第1回検討会における主なご意見
- 資料2 財団法人日本訪問看護振興財団の「訪問看護 e ラーニング」について（ヒアリング結果）
- 資料3 平成23年度専任教員養成講習会における教育方法及び評価方法の実態
- 資料4 第2回検討会における論点

【参考資料】 専任教員養成講習会ガイドライン（抜粋）

第2回 eラーニングを導入した看護師等養成所の専任教員養成講習会の実施方法に関する検討会
座席表

平成24年2月20日（月）15：00～17：00
経済産業省 別館1012会議室（10階）



事務局席

（傍聴席）

第 1 回検討会における主なご意見

1. e ラーニングを導入する上での課題と方策

(1) 効果的な e ラーニングシステムの構築について

- 学習の質を担保するためには、受講生の成績もデータとして残り、教員が指導に活用できる LMS（ラーニングマネジメントシステム）が必要。
- 専任教員養成においては、理論と実践を結びつけた教育が重要である。理論と実践を結びつけるため、通常は、受講生同士がグループで、または 2 人で討論やシミュレーションを行っている。

e ラーニングでは対面して討論する方法の代わりに BBS（電子掲示板）システムを活用し「つぶやき」を行っているが、全く異なる視点からの意見交換により、受講生の視野を広げることができる。

(2) 学習効果の高いコンテンツの制作

- 講義形式のコンテンツの作り方はイメージがつくが、専任教員養成講習会の場合、演習の内容が問題となる。演習の内容次第でコンテンツの作り方が異なる。
- e ラーニングのコンテンツ制作担当者は「教員が実現したい授業」となるように、コンテンツ提供の形態などについて努力する必要がある。
- 講師が画面中央で解説するコンテンツは、内容を捉えにくい。
- 音声や画面の中での講師の位置などもコンテンツのわかりやすさの要因である。
- 学習効果を高めるためには、随時授業評価に基づく教育内容の改善が必要だが、e ラーニングの場合は、コンテンツ作成まで多くの人が関わるため、授業評価を共有して頻繁にコンテンツを改良するのは難しいのではないかと。
- コンテンツ改良の際、一画面が講師とパワーポイントで構成されるコンテンツは映像を全て撮り直すことが必要となるが、画面がパワーポイントのみの場合は、比較的修正がしやすい。

(3) 受講者の意欲を高めるサポート体制の必要性

- 早稲田大学では e ラーニングで学ぶ学生を支援するため、修士以上の学位を取得している教育コーチを配置している。教育コーチは教員の補佐的役割を期待されており、メールなどで学生の質問に答えている。また、教員は受講者のモチベーションを上げたり、レポートに対する解説を行うなどの役割を果たしている。

- eラーニングを適用した場合、創造的な教育ができる教員を養成するためには、受講生をどのようにサポートすればよいか検討する必要があるのではないか。
- eラーニングは、受講者が能動的でモチベーションが高くないとうまくいかない。受講者が能動的に学習し、クリエイティブな思考ができる教育が必要ではないか。
- eラーニングは自己管理しなければ学習時間が保障されない。受講生が職務を行いながら受講できるかどうかが問題。

2. eラーニングを適用する教育内容について

- eラーニングは「教育分野」に導入可能ではないか。「専門分野」については、受講生同士が話し合いながら学ぶことが学習効果をあげる。

3. eラーニングと集合研修の組合せ方について

- eラーニングによる演習も可能であるが、スクーリングを行うとか、オンデマンド授業と対面授業を組合せる工夫が大切である。
- 専任教員養成講習会の基本の考え方として、eラーニングのみならず集合研修も必要。eラーニングと集合研修の組合せ方も課題である。

4. 受講期間と教育効果からみた講習会の実施方法について

- 受講生が十分な学習時間が確保できない中で、複数年に渡る履修も可能とするのかという判断も必要。
- 学習の順序性や、演習を通してさらに自分の課題を見つけることができるような教育の方法について検討が必要である。

5. その他

- 行政資料、白書以外の著作物や資料等をインターネットを通じて送信する場合は、「公衆送信権」に抵触するため、利用の許諾が必要となる。許諾の費用が巨額になる場合がある。

財団法人日本訪問看護振興財団の「訪問看護eラーニング」について(ヒアリング結果)

平成15年度	開発・コンテンツ作成開始(～平成17年 モデル事業実施)
平成18年度	日本看護協会による運用開始(平成20年度～ 財団法人日本訪問看護振興財団による運用開始)
平成23年度	第8回日本e-Learning大賞 奨励賞受賞

平成22年度の運営状況について

- ・ 受講(視聴)可能期間 5ヶ月間 受講料 15,000円
- ・ 受講資格: 訪問看護の知識取得を目指す者
- ・ 受講者数 1,007人 (修了率85.3%)
- ・ 総レッスン数 57レッスン(10分～30分/レッスン)

コンテンツの特徴(構成: 音声・画像有 テキストはダウンロード)

- 90% パワーポイント中心
- 10% 映像(例: 訪問看護の場面、心臓マッサージのシミュレーション等)

学習の評価

- ・ 内容のまとめ(章)毎に択一式の確認テスト
(1テスト20問, 14問以上正解で合格)
- ・ 設問はプール化し、ランダムに組み替えされて出題
- ・ 修了要件: 全確認テストの合格と映像以外の全レッスン視聴

受講者管理・受講支援(体制)

- ・ チューター制度: 財団職員2名が受講生の質問にメールにて対応
※ チューターの回答時間: 9:00～17:00 (メールは24時間受付)
質問対応: 169件(平成22年度)
- ・ 受講促進メールを送信
- ・ 別途ベンダーがヘルプデスク設置(PC操作、LMS画面に関する質問等)
※ ベンダーの対応時間: 9:00～17:00 (メールは24時間受付)
操作方法等のベンダー回答: 464件(平成22年度)

コンテンツの改善

- ・ 運用開始から5年以上経過したことから、平成23年度と平成24年度にコンテンツの大規模改訂
- ・ 複数の受講生から同じ質問があった部分について修正を実施
結果として受講生からの質問は減少
- ・ 統計・データや知見の更新があった場合は随時改訂を実施

受講者からのアンケート評価

- ① 「満足であるか」 97%が肯定的
(52%「全くそう思う」、45%「ややそう思う」)
- ② 「理解しやすいか」 94%が肯定的
(22%「とても理解しやすい」、72%「理解しやすい」)
- ③ 「実践に活かせるか」 98%が肯定的
(57%「全くそう思う」、41%「ややそう思う」)
- ④ 「操作性・機能」 92%が肯定的
(23%「とても使いやすい」、69%「使いやすい」)
- ⑤ 「今後、望む研修方法」
48%「次のステップもeラーニング」、
9%「ビデオやDVD、CD-ROM」

(受講生・運営者からの意見)

受講者側

- ・ コンテンツ毎に教育内容のつながりなど、カリキュラムとしての一貫性に不安を感じる
- ・ テキスト中の「よくある質問」は、授業の内容に含めて欲しい
- ・ テキストのダウンロード・印刷は、時間と経費の負担

運営者側

- ・ 確認テストの合格＝能力を獲得したかどうかの確認には限界
- ・ 受講者同士の交流が困難
(SNS(ソーシャルネットワークサービス)活用の検討)

訪問看護eラーニングへ ようこそ

日本訪問看護振興財団
eラーニング担当



訪問看護eラーニングとは

**ネットにつながるパソコンとユーザID・パスワード
があればいつでもどこでも
訪問看護について学べます。
受講可能期間は5ヶ月間です。**

**ランです。
eラーニングで訪問看護の
基本的な知識と技術が
勉強できます。**



申込みから受講まで

日本訪問看護振興財団のホームページにアクセス



「訪問看護eラーニング」の画面にすすむ



申し込み画面に必要情報を入力

体験版を視聴して
パソコンの推奨環境を
チェック！



クレジットカードやコンビニエンスストアで入金



ユーザID・パスワードがメールで届く

これで受講開始です



財団の概要

- 所在地・交通案内

訪問看護

訪問看護

ご寄付の

『財団方

会員のこ

あんしん総合保険

相談の受付

教育・研修一覧

研究・開発事業

出版物・販売物

財団立訪問看護ステーション

ご意見・ご要望

リンク

会員専用サイト

■トップページ■

グローバルサイン認証サイト



クリックして検証

Total: 0255004

Today: 0000320

yesterday: 000046

3

② 財団会員対象「メールマガジン」登録受付中

② 財団会員専用ページ登録受付中

お申込受付中

全国ブロック研修 在宅での看取りのセミナー(H22年5月から開催)

訪問看護管理者のための経営・運営改善セミナー(H22年5月から開催)

ここをクリック

訪問看護eラーニング

職場や自宅のパソコンから
自分の好きな時間に訪問看護の知識が学べます。訪問看護と連携した通所サービス
- 療養通所介護 -

Blog



財団の概要

理事長ご挨拶 | 設立趣旨等 | 当財団を巡る動き | 主な活動状況 | 所在地・交通案内 | 定款(寄附行為) | 個人情報保護方針 | 役員・評議員名簿 | 事業報告書 | 収支決算報告 | 財産目録 | 事業計画書 | 収支予算書 | 報酬・退職金規程 |

訪問看護について

誰が来てくれるの? | どんな人がうけられるの? | 何をしてくれるの? | 料金はいくらかかるの? | どうすれば受けられるの?



お知らせ

-2010年6月7日

訪問看護最新情報に日本財団の福祉車両助成事業について掲載しました。

-2010年6月2日

訪問看護最新情報に「自殺未遂による傷病に係る保険給付等について」を掲載しました。

-2010年6月2日

訪問看護最新情報に「平成22年訪問看護ステーション数調査(社団法人全国訪問看護事業協会調べ)」結果を掲載しました。

-2010年5月20日

4月30日付で療法士等の喀痰吸引を可能とした通知が発出されました。「訪問看護最新情報」に掲載します。

平成23年度 eラーニング

体験版はこちら

お申込はこちら (6月1日より)

ログイン

訪問看護eラーニングって?

申込から受講まで

受講から修了まで

訪問看護eラーニング活用方法

よくあるご質問

日本訪問看護振興財団ホームページへ

下記ソフトが必要な方は
こちらからダウンロードしてください。



ここをクリック

訪問看護 eラーニング

職場や自宅のパソコンから
自分の好きな時間に訪問看護の知識が学べます。

訪問看護の基礎を勉強したい
訪問看護師



退院支援に活かすために
知識を広げたい病院看護師



在宅看護論を教えるときに
活用したい看護教員



次の就職のために時間を
有効に活かしたい離職中の看護師



ログイン

ユーザID・パスワードを入力してログインボタンを押してください。

ユーザID

パスワード

ログイン

[パスワードを忘れた方はこちら](#)

自分のID
パスワードを
入力します

TOPへ

ライブラリ

問い合わせ

コース申込

ログアウト

スケジュール

◀	2010/6					▶
日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

NetLearning

パスワード変更

訪問 太郎 さんようこそ!

ヘルプ

コースのお申し込みはこちら[コース申込](#)からどうぞ!

★訪問看護eラーニングへようこそ! コース学習ボタンをクリックして受講を開始してください。学習中に分からないことがあった時はチュートリアルボタンから質問できます。

お知らせ一覧

(0件)

タイトルをクリックすると内容がご覧いただけます。
添付ファイルがあるお知らせには「📎」マークが表示されます。
既読のお知らせには「📧」マークが表示されます。

マイルーム画面です。
ここをクリックして
学習を開始します。

コース一覧

コース名	学習開始	受講期間	閲覧期間	ステータス
訪問看護 eラーニング	コース学習	2010/05/21- 2010/10/20	-	受講中 1%

コース目次

コース目次です。
どの項目からでも受講できます。

▶▶ [『平成23年度 訪問看護eラーニング』ご利用の手引き](#) ※はじめに必ずお読みください

★ 必須: 受講必須のレッスン(講義)ページです。

☆ 参考映像やコラムなどです。

★ 必須: 70%以上正解する事が必須のテストです。

📖 テキストのダウンロードページです。

第1章 訪問看護概論

📖 [テキスト・参考資料ダウンロード](#)

- 1節 ★ [保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護のニーズ](#) (09分09秒)
- 2節 ★ [訪問看護の歴史](#) (11分18秒)
- 3節 ★ [訪問看護の定義と理念](#) (07分24秒)
- 4節 ★ [訪問看護をめぐる諸制度](#) (15分06秒)
- 5節 ★ [介護保険と訪問看護](#) (09分09秒)

★ [第1章 確認テスト](#)

☆ [【コラム】チュータ自己紹介](#)

第2章 訪問看護対象論

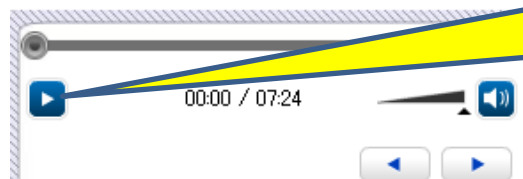
📖 [テキストダウンロード](#)

- 1節 ★ [対象となる個人](#) (07分14秒)
- 2節 ★ [対象となる家族](#) (11分53秒)
- 3節 ★ [家族支援の展開](#) (33分31秒)
- 4節 ★ [対象となる地域](#) (15分51秒)
- 5節 ★ [地域アセスメントの展開](#) (13分24秒)

★ [第2章 確認テスト](#)

【音声+スライド】訪問看護の定義と理念

レッスンコンテンツの最初のページです。ここをクリックして開始します。



3節 訪問看護の定義と理念

- ▶ 3節 訪問看護の定義と理念
- ▶ 在宅ケアと訪問看護
- ▶ 在宅ケアと訪問看護
- ▶ 訪問看護の理念
- ▶ 訪問看護に必要な看護の視点①
- ▶ 訪問看護に必要な看護の視点②
- ▶ 訪問看護に必要な看護の視点③
- ▶ 訪問看護の主な目標となる視点①
- ▶ 訪問看護の主な目標となる視点②
- ▶ 訪問看護の主な目標となる視点③
- ▶ 引用・参考文献

3節 訪問看護の定義と理念

ねらい

訪問看護の定義を理解し、訪問看護の目指すものからその理念を理解する

目 標

1. 訪問看護の定義を理解する。
2. 訪問看護の理念(訪問看護に必要な看護の視点および主なる目標)について理解を深める。

【注意】最終画面のメッセージが表示されるまで
閲覧履歴は記録されませんのでご注意ください。

第5章 訪問看護技術論 2節 医療処置別技術論

3項 点滴・中心静脈栄養法

レッスンコンテンツのページ例①です。
スライド資料と音声解説で学習します。

11:04 / 23:18

- ▶ 在宅中心静脈栄養法の対象となる疾患
- ▶ 在宅中心静脈栄養法を支える仕組み
- ▶ Central Venous (CV)カテーテルとは
- ▶ CVカテーテルの種類
- ▶ CVポートとは
- ▶ CVカテーテルの先端
- ▶ CVポートのシステム全景
- ▶ 皮下埋め込み式CVカテーテルの仕組みと扱い
- ▶ ポートへの穿刺手順
- ▶ 薬剤の投与
- ▶ ヒューバー針の持ち方
- ▶ 抜針手順
- ▶ TPNに使用される薬剤の種類
- ▶ TPN投与方法
- ▶ カテーテルに関連した合併症
- ▶ カテーテルピンチオフ
- ▶ カテーテルピンチオフ
- ▶ カテーテルピンチオフ
- ▶ 代謝に関連した合併症

ヒューバー針の持ち方

ヒューバー針

ヒューバープラス針

親指と中指で**チューブとグリップ部**をしっかり持つ

人差し指は**ニードルアングル部の真上**に置く

写真提供: メディコン株式会社

【注意】最終画面のメッセージが表示されるまで
閲覧履歴は記録されませんのでご注意ください。

◀ NOW ▶

切替 Video Slide

第5章 訪問看護技術論 2節 医療処置別技術論

9項 腹膜透析 I:概論

レッスンコンテンツのページ例②です。
イラスト等を用い分かりやすい内容になっています。

腎代替療法＝生涯継続

透析療法

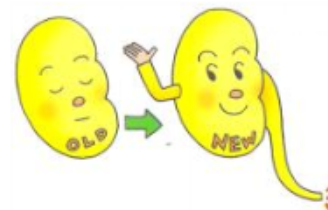


・血液透析
(Hemo Dialysis)



・腹膜透析
(Peritoneal Dialysis)

腎移植



- ・生体腎移植
- ・献腎移植

- 9項 腹膜透析(在宅自己腹膜灌流) I:概論
 - 9項 腹膜透析(在宅自己腹膜灌流) I:概論
 - I. 腹膜透析の概論
 - 腎代替療法＝生涯継続
 - 腹膜透析の動向
 - 腎臓のはたらき
 - 腹膜透析とは
 - 腹膜透析の原理
 - 腹膜透析の種類
 - 参考文献

【注意】最終画面のメッセージが表示されるまで
閲覧履歴は記録されませんのでご注意ください。

● 平成23年度 訪問看護eラーニング

第1章 訪問看護概論

1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護の

レッスンコンテンツ最終画面です。
修了に必要なレッスンコンテンツはこの画面が
表示されないと学習履歴が認証されません。

The screenshot shows the final screen of a lesson titled '文献' (Literature). The interface includes a video player at the top with a progress bar at 09:09 / 09:09. On the left is a sidebar menu with the following items: 第1章 訪問看護概論, 第1章 訪問看護概論, 1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護の, 1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護の, 第1項:保健医療福祉をめぐる社会的動向 ① 人口, 第1項:保健医療福祉をめぐる社会的動向 ② 家族, 第1項:保健医療福祉をめぐる社会的動向 ③ 平均, 第1項:保健医療福祉をめぐる社会的動向 ④ 疾病, 第2項:訪問看護のニーズ, 第2項:訪問看護のニーズ, and 文 献 (highlighted). The main content area has the title '文 献' and the subtitle '参考・引用文献'. It lists three references: 1. 川村佐和子ほか監修:訪問看護管理マニュアル、P2～P18、財団法人日本訪問看護振興財団、2002; 2. 厚生統計協会編、国民衛生の動向、2009; 3. 厚生労働省監修:平成20年度版 厚生労働白書、ぎょうせい. A large white watermark '終了いたしました。' (The lesson has ended.) is overlaid on the text. Below the references is a message 'をクリックして次のページにお進みください。' (Click here to proceed to the next page.) and a button 'もう一度見る' (View again). At the bottom, there is a note: 【注意】最終画面のメッセージが表示されるまで閲覧履歴は記録されませんのでご注意ください。 (Note: Please be careful as the browsing history will not be recorded until the message on the final screen is displayed.) and navigation buttons: < NOW > and 切替 Video Slide.

09:09 / 09:09

文 献

参考・引用文献

1. 川村佐和子ほか監修:訪問看護管理マニュアル、P2～P18、財団法人日本訪問看護振興財団、2002

2. 厚生統計協会編、国民衛生の動向、2009

3. 厚生労働省監修:平成20年度版 厚生労働白書、ぎょうせい

終了いたしました。

をクリックして次のページにお進みください。

もう一度見る

【注意】最終画面のメッセージが表示されるまで
閲覧履歴は記録されませんのでご注意ください。

< NOW >

切替 Video Slide

第1章 訪問看護概論

1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護のニーズ

2節 訪問看護の歴史

3節 訪問看護の定義と理念

4節 訪問看護をめぐる諸制度

5節 介護保険と訪問看護

1

1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護のニーズ

ねらい
保健医療福祉をめぐる社会的動向を理解し、訪問看護のニーズを明確にする。

目 録
1. 保健医療福祉をめぐる社会的動向を理解する。
2. 訪問看護のニーズを理解する。

2

レッスンコンテンツのスライドページはPDFでダウンロードし、保存・印刷が可能です。その他、保存できる参考資料もあります。

1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護のニーズ

第1項 保健医療福祉をめぐる社会的動向

第2項 訪問看護のニーズ

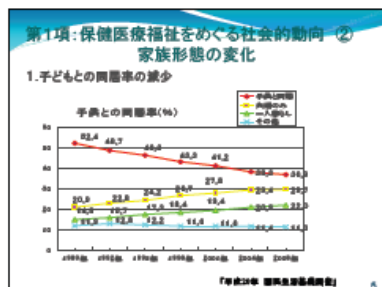
3

第1項:保健医療福祉をめぐる社会的動向 ① 人口構造の変化

1. 少子化
・15歳以下の人口割合 13.5% (2008年)で連続減少
・合計特殊出生率 1.37 (2008年)
・第一子出生時の母親の年齢 29.4歳 (2007年)
↓
・**誰やか親子21 (2000年策定)**

2. 高齢化
・高齢化率 22.1% (2008年)
・2015年には25%に達する見込み
・平均寿命の延伸 女性86.05才 男性79.29才 (2008年)
↓
・**健康日本21-ゴールドプラン21 (2000年策定)**

4



第1項:保健医療福祉をめぐる社会的動向 ③ 平均在院日数

1. 平均在院日数からみる高齢者の疾患の慢性化
通院患者平均在院日数(単位日) 厚生労働省「患者調査」2006年

	0~14才	15~34	35~64	65才以上	70才以上
平均在院日数	8.9	13.0	29.5	47.7	50.2

2. 早期退院の推進
QOLの視点
医療経済の視点

6

第5章 訪問看護技術論 2節 医療処置別技術論

61項 【参考資料】 在宅酸素療法

参考資料の例①です。
写真等を用いた資料も多く使用しています。

呼吸同調式デマンドバルブ

- ・携帯用酸素に取り付け、患者の吸気時のみにバルブを開いて酸素を流出させ、酸素を節約する装置。
- ・呼吸を一定時間(30秒程度)感知しない場合、アラーム音が作動する機種もある。



(写真提供: 帝人ファーマ株式会社)

第5章 訪問看護技術論 3節 訪問看護展開のための知識・技術

3項 【参考資料】 フィジカルアセスメント（打診・聴診）

-  マークをクリックしてください。それぞれ音が確認できます。
(もう一度クリックすると音声は止まります。)

参考資料の例②です。
音声による学習もできます。

打 診

-  共鳴音
-  濁音(鈍音)

聴 診

【正常呼吸音】

-  気管音
-  気管支肺胞音
-  肺胞音

【異常呼吸音】 副雑音

A. 連続性

-  高調性 (wheeze)
-  低調性 (rhonchi)

第5章 訪問看護技術論 2節 医療処置別技術論

61項 【参考映像】 在宅酸素療法 (2) 今日から始める自己管理 ～呼吸リハビリテーションの
実践～

参考映像の例①です。
このような動画を利用した参考映像でも学習することができます。

■ 今日から始める自己管理 呼吸リハビリテーション

- ▶ 今日から始める自己管理 呼吸リハビリテーション
- ▶ 第1章 呼吸のしくみと酸素 (10分)
- ▶ 第2章 在宅酸素療法の意義としくみ (14分)
- ▶ 第3章 在宅酸素療法に使用する酸素供給器の取
酸素濃縮装置
- ▶ 酸素ボンベの使用法
- ▶ 第4章 急性増悪 普段からできる予防と早期発見
- ▶ 第5章 呼吸法と体の動かし方 (14分)
 - ▶ 口すぼめ呼吸と腹式呼吸
 - ▶ 運動療法
 - ▶ 日常生活の呼吸
 - ▶ 息切れがおきたときの対処法
- ▶ 付録 運動療法 画面に合わせて行ってみましょう
 - ▶ 首を回す体操
 - ▶ 肩を回す体操
 - ▶ 身体をひねる体操
 - ▶ 身体を横に倒す体操
 - ▶ 太ももの筋肉を鍛えるスクワット
 - ▶ 腕の筋肉を鍛える壁懸垂



【映像】在宅ホスピスケア参考映像(一部)

参考映像の例②です。
他にも参考映像があります。

在宅ホスピスケア参考映像

▶ 在宅ホスピスケア参考映像(4分44秒)



00:59 / 04:44



【注意】参考映像出演者の所属・職位等は作成当時のものであり、現在は変更している場合があります。ご了承ください。

第1章 訪問看護概論

◆◆◆◆ 第1章 確認テスト ◆◆◆◆

確認テストです。
修了にはテストごとに70%以上の
正解が必要です。

確認テストでは、全 20 問のうち 14 問 (70 %) 以上正解すると合格となります。合格を目指してがんばりましょう！

【注意】

- ・全ての問題を解いたあと、画面下の **解答完了** をクリックして解答を送信してください。
- ・全問解答必須です。出題内容は受講者・受講ごとに異なります。
- ・20 問中 14 問 (70 %) 以上正解したあとは、再テストを受けることができません。
- ・時間制限はありません。ただし、テストの途中でブラウザを閉じたり、ブラウザの戻るボタンで戻った場合は、1問目から再受験しなければいけませんので、十分ご注意ください。

Q1

次の文のうち、正しいものを選びなさい。

- A 一人暮らし高齢者は男性のほうが多い。
- B 一人暮らし高齢者に多い閉じこもりとは、寝たきり状態での生活しかできず、外に出られない状態をいう。
- C 一人暮らし高齢者のための支援のポイントの1つは閉じこもりを予防することである。
- D 後見人制度とは判断能力を失った認知症高齢者に対しての、経済的援助を定めたものである。

● 平成23年度 訪問看護eラーニング

日本訪問看護振興財団 さんの学習成績

学習成績です。
レッスンの学習やテストを受けると
背景が黄色に表示されます。

テスト

タイトル	解答日	正解数
1節 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護のニーズ	2011/05/11	1/1
2節 訪問看護の歴史		
3節 訪問看護の定義と理念		
4節 訪問看護をめぐる諸制度		
5節 介護保険と訪問看護		
◆◆◆◆◆ 第1章 確認テスト ◆◆◆◆◆		
1節 対象となる個人		
2節 対象となる家族		
3節 家族支援の展開		
4節 対象となる地域		
5節 地域アセスメントの展開		
◆◆◆◆◆ 第2章 確認テスト ◆◆◆◆◆		
1節 訪問看護過程		
2節 訪問看護の実際		
3節 チームケア		
4節 カンファレンス		
◆◆◆◆◆ 第3章 確認テスト ◆◆◆◆◆		

第5章 訪問看護技術論 1節 対象別技術論

7項 体感！心臓マッサージ（胸骨圧迫）

体験型コンテンツです。
ゲーム感覚で学ぶことができます。

3. 患者の脊柱に対して垂直に力を加え
胸骨を押し下げます。



チュータへの質問画面です。
レッスンの内容に関する質問は
こちらからお寄せ下さい。

チュータHotLine【平成23年度 訪問看護 eラーニング】

担当チュータとの質問回答ホットラインとしてご活用ください。

- ・ 担当チュータに関するご相談、および発言の削除は、ラーニングセンターまでメールでご連絡ください。[ラーニングセンターへメールを送る](#)
- ・ タイトル部分をクリックすると発言の内容がご覧になれます。
- ・ 「■」部分をクリックすると親発言から全発言がご覧になれます。

[発言一覧](#) / [新規発言](#) / [検索](#) / [戻る](#) / [閉じる](#)

書込みがありません。
新規発言をクリックして、メッセージを書き込んでください。

[発言一覧](#) / [新規発言](#) / [検索](#) / [戻る](#) / [閉じる](#)

このたびは、「訪問看護eラーニング」コースをご利用いただき誠にありがとうございました。

コース内容やeラーニングシステムの改善に役立てるため、コースレビュー(アンケート)へのご回答をお願いいたします。ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

コースレビュー(アンケート)です。
この送信をもって修了認定がされます。

Q1	今回のeラーニングにはご満足いただけましたか？ *必ずご回答ください。
Q2	今回学んだことが実務に活かせると思いますか？ *必ずご回答ください。
Q3	難易度はいかがでしたか？ *必ずご回答ください。
Q4	ボリュームはいかがでしたか？ *必ずご回答ください。
Q5	5ヶ月間の受講期間はいかがでしたか？ *必ずご回答ください。
Q6	eラーニングの受講料(個人15,000円、県協会経由13,000円)はいかがでしたか？ *必ずご回答ください。
Q7	学習における操作性や機能はいかがでしたか？ *必ずご回答ください。

第5章 訪問看護技術論

コラム

さらなるステップアップを目指して ～認定看護師教育課程～

修了要件には含まれない
コラムページです。
eラーニングや訪問看護に関する
情報などを紹介しています。

認定看護師をご存じでしょうか？この制度は1997年に救急看護、皮膚・排泄ケア分野の認定から始まり、2011年現在で21分野が特定されています。（詳しくは日本看護協会ホームページをご覧ください。）その中で、訪問看護分野は1998年に分野特定され、2006年に訪問看護認定看護師第一号が誕生しました。訪問看護認定看護師は地域の医療ニーズの高い在宅療養者・障がい者のケースマネジメントならびに専門的看護を提供し、在宅ケア領域でリーダーシップを発揮する看護師です。2011年4月現在、全国で198名の訪問看護認定看護師が活動しています。

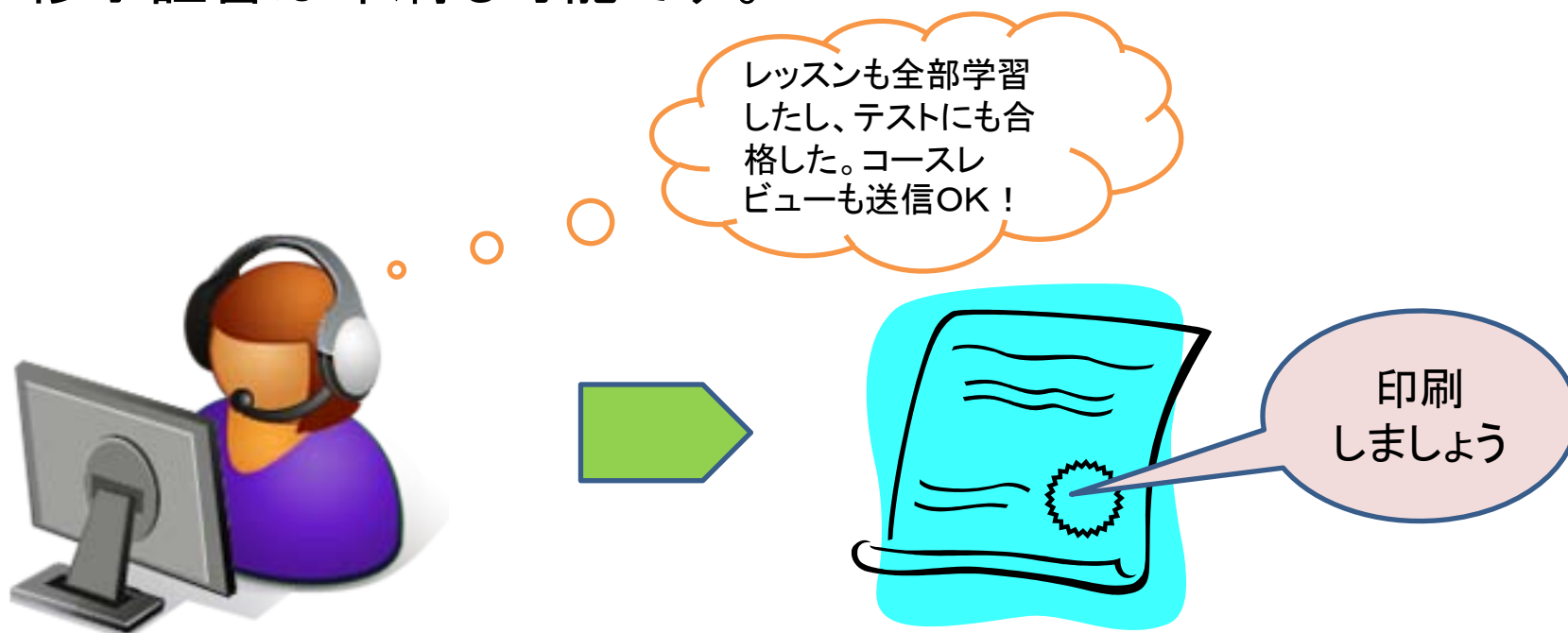
認定看護師は各領域で「実践・指導・相談」の3つの役割を担います。認定看護師というと皮膚排泄ケアや緩和ケアのようにその分野に特化した専門性をもった資格をイメージしますが、訪問看護の場合は医療機関に入院中の方の退院支援（移行期ケア）から在宅での看取り・グリーフケアに至るまで活動の場が広範囲・多岐にわたっています。また訪問看護の対象は新生児から障がい者・高齢者、その家族・介護者と地域で生活しているすべての方々です。訪問看護師には単独で利用者宅に訪問し、観察・アセスメント・ケアマネジメントを行う力量やチームケアの実践・モニタリングを行う力量が必要になります。

訪問看護認定看護師は訪問看護の仲間が共に学びながら質の向上が図れるように活動することや他職種と連携し、ケアチームの一員としての役割も担います。さらなるスキルアップのために皆様も訪問看護認定看護師を目指しませんか？ 日本訪問看護振興財団の認定看護師教育課程は、全日制で6カ月集中型です。受験案内などは随時、当財団ホームページに掲載いたします。カリキュラムを下記にあげましたのでご参照ください。

修了証書発行の手順

全てのレッスンコンテンツ学習が終了し、テスト合格およびコースレビューが送信されるとマイルームに **修了証書** ボタンが表示されます。

そのボタンをクリックして、修了証書を表示させてください。
修了証書は印刷も可能です。



[TOPへ](#)

NetLearning

[ログアウト](#)

スケジュール

◀	2011/5					▶
日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

NetLearning

パスワード変更

日本訪問看護振興財団 さんようこそ!

[ヘルプ](#)

ここに、学習者に向けたメッセージを自由に表示させることができます。

メッセージの設定や修正は、管理者用の画面から行います。

コース一覧

コース名	学習開始	受講期間	閲覧期間	ステータス
平成23年度 訪問看護 eラーニング	コース学習	2011/04/13- 2011/06/30	-	修了 100% 修了証書

ここをクリックして修了証書を
発行します。

修了証書

日本訪問看護振興財団 殿

貴殿は下記のコースを修了されたことをここに証明いたします。

平成23年度 訪問看護 eラーニング



ここをクリックして修了証書
を印刷します。

受講修了日: 2011年 5月 18日



財団法人 日本訪問看護振興財団
理事長 清水 嘉与子

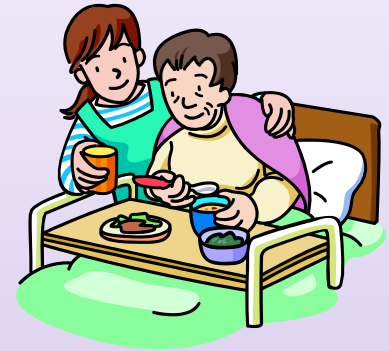


財団法人 日本訪問看護振興財団

さらに……



- 所定の実習を行うと



訪問看護研修ステップ1 修了と認定されます！

詳しくは日本訪問看護振興財団
ホームページをご覧ください

平成23年度専任教員養成講習会の教育方法及び評価方法の実態

区分	11府県の実施状況
単位数と時間数	・総単位数は34～38単位、総時間数は855～1220時間と幅がある。
各分野共通	・同じ授業内容であっても、都道府県によって単位数が異なっている。 ・同じ授業内容・単位数であっても、評価方法は異なっている。 ・出席時間を満たすだけで単位を認定している場合もある。
基礎分野	・3箇所が専任教員養成講習会実施要領の標準を超えて単位数と時間数を増加させている ・11箇所合計18の授業内容を設定している。
教育分野	・都道府県により各授業内容の1単位当たりの時間配分は異なっている 教育原理 : 30時間－9箇所 15時間－ 1箇所 教育原理と教育課程5単位120時間－1箇所 教育方法 : 30時間－5箇所 15時間－ 6箇所 教育心理学: 30時間－5箇所 15時間－ 5箇所 教育評価 : 30時間－1箇所 15時間－10箇所
専門分野	・8箇所が1つまたは複数の授業内容の単位数及び時間数を増加させている。 ・4箇所が授業内容の単位数を増加させている。 ・4箇所が授業内容を追加している。 ・2箇所が授業内容を変更している。
その他	・合計25の授業内容を設定している。 ・1箇所が単位数を増加させている。 ・3箇所が単位を付与しない特別講義を設定している。 ・1箇所が単位を付与しない授業内容を275時間設定している。(その他の2単位は基礎分野～専門分野の中に位置付けている。)

専任教員養成講習会における教育方法及び評価方法の実態

別表2

区分	教育内容	授業内容	実施箇所数		単位数	時間数	授業の形式		授業の具体的な方法			評価の方法				
							講義形式	演習形式	グループワーク	PBL※	その他	レポート	テスト	面接	出席のみ	その他
基礎分野	看護教育の基盤	論理学	6	5	1	15	5					2			3	
				1	2	30	1					2				
		論理的思考		3	1	15	3					2			2	1(授業への取り組み)
		生命倫理学		2	1	15	2	1	1			1				
		倫理学		4	1	15	4					2			2	
		哲学		4	1	15	4					1			3	
		心理学		1	1	15	1						1			
		発達心理学		4	1	15	4					1	1		2	
		青年心理学		1	1	15	1								1	
		社会心理学		2	1	15	2					1			1	
		人間関係		1	1	15	1					1				
		人間関係論	5	4	1	15	4	2	3		1(インタビュー)	1			2	
				1	1	30	1	1	1			1				
		人間関係論Ⅰ	2	1	1	15	1								1	
				1	1	30	1	1	1			1				
		人間関係論Ⅱ		1	1	15	1	1	1		1(体験学習等)				2	
		情報科学		7	1	15	7	2			2(表計算と文書作成統計処理)		3		4	
		統計と情報科学		1	1	15	1	1	1						1	1(グループワーク参加度)
		人間と科学		1	1	15	1	1				1				
		比較文化論		1	1	15	1					1				
		ヒューマンサービス論		1	1	15	1	1	1			1				
教育分野	教育の基盤	教育原理	10	1	1	15	1					1				
				9	1	30	9	1	1			3	2		4	
		教育原理と教育課程		1	5	30	1						1			
		教育心理学	11	5	1	15	5					2			3	1(授業・演習の参加度)
				6	1	30	6	2	1			1	3		1	1(発表)
		教育評価	11	9	1	15	9					4	1		4	
				2	1	30	2					2				
		教育方法	11	7	1	15	7	1	1			4	2		2	1(演習、参加状況) 1(授業への参加度)
				4	1	30	4					2			2	
専門分野	看護論	看護論	11	10	1	30	10	3	3			5			5	
				1	併せて	18										
		看護論演習	11	1		42		1	1			1				1(グループワーク参加度)
				10	1	30	1	10	9	2	1(模擬患者とのロールプレイ)	10			1	
	看護教育学	概念化論		1	1	15	1	1	1			1				
		看護教育論		11	1	15	11	2	2			5	1		4	1(授業・演習の参加度)
	看護教育学	看護教育制度		11	1	15	11	4	3			5	1		5	1(講義への参加度)
	看護教育課程	看護教育課程論	11	7	2	45	7	1	1			3	3		2	
				4	2	60	4	2	2			2			1	1(講義への参加度、発表)
		看護教育課程演習	10	9	2	60		9	8	1		9				1(態度、発表)
				1	4	120		1	1	1		1			1	
		看護教育課程演習Ⅰ			1	30		1	1						1	1(態度、発表)
	看護教育方法	看護教育課程演習Ⅱ			1	30		1	1						1	
		看護教育方法論	10	9	3	90	9	4	3		1(病院実習)	6	3		1	1(授業態度、発表内容、グループワーク参加度)
				1	4	90	1	1	1			1				
		看護教育方法論Ⅰ			1	30	1	1	1			1				
		看護教育方法論Ⅱ		1	1	30	1	1	1		1(ロールプレイ)				1	
		看護教育方法論Ⅲ			1	30	1	1	1						1	
		看護教育方法演習	10	9	3	90		9	8	2		8			1	1(態度、発表)
				1	4	105		1	1			1				
		看護教育方法論演習Ⅰ			1	30		1	1						1	
	看護教育実習	看護教育方法論演習Ⅱ		1	1	30		1	1			1				1(模擬授業の実施)
		看護教育方法論演習Ⅲ			1	30		1							1	
		看護教育実習		10	2	90						9		1	1	1(教育実習評価表) 1(観察内容・学生との関わり内容) 1(授業・実習指導の実際の評価) 1(実習評価) 1(学習態度)
		看護学教育実習		1	2	90		1								1(評価表)
	看護教育演習	在宅看護実習		1	1	45						1			1	
		専門領域別看護論		11	1	15	10	2				4			6	1(授業態度)
		専門領域別看護論演習	10	9	2	60	1	9	6	2	1(現場での実践)	8			1	1(授業実践内容)
				1	3	75		1	1						1	
	看護教育評価	専門領域別看護論演習Ⅰ			1	30	1	1							1	
		専門領域別看護論演習Ⅱ		1	1	30		1	1						1	
		看護教育評価		11	1	30	11	4	3			5	4		1	1(講義・課題への参加度)
		看護教育評価演習		10	1	30	3	10	8	2		8			2	1(演習への参加度)
	研究	看護教育評価演習Ⅰ		1	1	30		1	1						1	
		看護教育評価演習Ⅱ		1	1	30	1	1	1						1	
		研究方法		9	2	60	9	7	7	1		9			1	1(発表内容)
		研究方法Ⅰ		1	1	30	1	1							1	
		研究方法Ⅱ		1	1	30	1	1							1	
		看護教育研究方法			1	30	1								1	
	看護学校経営	看護教育研究計画演習		1	1	30		1			1	1				
		看護教育研究演習		1	1	30		1			1	1				
		看護学校管理		10	1	15	10	2	2		1(養成所見学)	8			3	
		看護学校経営		1	1	15	1					1				
		マネジメント理論		1	1	15	1								1	
	看護学校経営	看護管理		1	1	15	1					1				

※PBLとは、課題解決型学習

「その他」として設定されていた教育内容とその育方法および教育評価の実態(単位付与)

その他	実施箇所数	単位数	時間数	授業の形式		授業の具体的な方法			評価の方法				
				講義形式	演習形式	グループワーク	PBL	その他	レポート	テスト	面接	出席のみ	その他
医療人類学	1	1	15	1					1				
文化人類学	1	1	15	1								1	
倫理学	1	1	15	1								1	
社会心理学	1	1	15	1						1			
カウンセリング論	1	1	15	1						1			
人間工学	1	1	15	1									評価なし
医療経済学	1	1	15	1									評価なし
経営管理学	1	1	15	1								1	
健康政策論	3	1	15	3	1	1			2			2	
社会保障論	1	1	15	1								1	
キャリアアップ論	1	1	15	1								1	
リーダーシップ論	1	1	15	1								1	
集団力学	1	1	30	1		1			1				
グループワークの技法	1	1	15	1	1	1						1	講義への参加度
医療の動向	1	1	2	1								1	
組織行動論												1	
特別講義(討議法)				1	1			1文献検索				1	
特別講義(がん看護)	1	1	15	1								1	
特別講義	1	2	30									1	

「その他」として設定されていた教育内容とその育方法および教育評価の実態(単位を付与しないもの)

その他	実施箇所数	単位数	時間数	授業の形式		授業の具体的な方法			評価の方法				
				講義形式	演習形式	グループワーク	PBL	その他	レポート	テスト	面接	出席のみ	その他
看護管理概説	1	なし	20	1	1	1				1	}		
看護専門職論			40	1						1			
ヘルスケア提供システム論			20	1	1	1				1			
看護サービス提供論			60	1	1	1				1			
グループマネジメント			40	1	1	1				1			
看護情報論			20	1						1			
社会福祉学			30	1						1			
介護福祉学			30	1									
コミュニケーション技術			15	1									
特別講義	3	1	なし	3	1								
		1	なし	18	1								
		1	なし	30	1								

専任教員以外の
資格のために
試験を実施

1
1

第 2 回検討会における論点

1 専任教員養成講習会における授業の方法、評価の方法からみた、e ラーニングになじみにくい授業内容はなにか。

1) 授業の方法は「講義形式」「演習形式」のいずれか、あるいは組合せて行われているが、「授業の形式」を考慮する必要があるか。

考慮するとすれば、e ラーニングになじみにくい授業の形式はなにか。

2) 評価の方法は「レポート」「テスト」「出席のみ」のいずれか、あるいは組合せて行われているが、「評価の方法」を考慮する必要があるか。

考慮するとすれば、e ラーニングになじみにくい評価の形式はなにか。

3) 「基礎分野」「その他」について

①都道府県が自由に授業内容を決めることができるため多様な授業内容が設定されているが、e ラーニングの適用をどのように考えるべきか。

②授業内容が同じであっても 1 単位あたりの時間数の設定が異なるが、e ラーニングの適用をどのように考えるべきか。

4) 「教育分野」について

①同じ授業内容であっても 1 単位あたりの時間数の設定が異なっている場合があるが、e ラーニングの適用をどのように考えるべきか。

②専門分野の授業内容の基盤となることから、教育内容の平準化を図るために、e ラーニングを適用することとしてはどうか。

5) 「専門分野」について

①「看護論」「看護教育課程」「看護教育方法」のように「講義」と「演習」から構成される教育内容について、e ラーニングの適用をどのように考えるべきか。

②「看護教育課程演習」「看護教育方法演習」「専門領域別看護論演習」「看護教育評価演習」は、授業が「グループで課題に取り組む演習」「個人で課題に取り組む演習」のいずれか、あるいは組合せて行われているが、e ラーニングの適用をどのように考えるべきか。

2 専任教員養成講習会修了時の到達目標と主な教育内容の観点から、e ラーニングになじみにくい授業内容はああるか。

表2 看護教員の教育実践力と講習会終了時における到達目標と主な教育内容

能力		下位の能力	講習会終了時における到達目標	主な教育内容
Ⅰ 看護教育の基盤となる能力		A 看護教員の基本的責務	1 組織の一員として、カリキュラム運営について教員会議で発言する必要性がわかる。 2 自己の看護教育に対する考え方を理論的に明確にし、学生に示すことができる。 3 私はこれから教師という仕事にやりがいを見出し取り組んでいける。 4 自分の役割を果たす上での限界を同僚、あるいは関係者に説明できる。 5 自分の言動が学生に及ぼす影響を自覚して、責任ある行動がとれる。	・看護教育における教師の役割と求められる資質 ・看護教員として果たすべき責務と業務の範囲 ・看護教育における倫理 ・看護教師のあり方 ・学校管理における教員の役割 ・成長発達に伴う学習者の心理 ・学習者の個と集団の理解 ・学習者と教師の相互理解 ・青年期である学生の価値観や信条・文化 ・学習者との相互理解を基本とした援助関係を形成
		B 看護教育における倫理的実践	6 教師として知り得た学生の個人情報了他所で話題にしないように行動する。 7 学生が立てた学習計画を尊重しながら、助言している。	
		C 看護学生との援助的人間関係	8 授業では、学生の意見や要望を認め、受け入れるような関わりができる。 9 学生の個性を大切にし、個々の成長に応じて対応できる 10 学生の相談に応じる際には丁寧に話を聴き、学生が自分の気持ちを本音で話せるように関わろうとする。	
Ⅱ 看護教育の展開能力	1 看護学生のレディネスに応じた教育実践力	D 看護教育における教育的判断	11 ケア場面において、患者の反応や学生のケア提供による影響を見極め、援助の中止・変更を決定できる。 12 学生がケアを患者の状態に合わせて安全に実施できるように、患者のベッドサイドで、ケアの改善点をタイミングよく助言・指導できる。	・看護観の明確化 ・各看護学の専門領域の概要と構造 ・変化する保健医療福祉制度の動向 ・看護教育を取り巻く環境の変化 ・看護教育における教材研究 ・看護教育における技術教育 ・看護教育における「統合」の方法 ・看護教育における教授学習計画 ・指導技術 ・単元の学習指導計画・講義の指導案の作成と実施 ・臨地実習の学習指導計画および指導案の作成と実施 ・教育課程の基礎理論 ・看護教育課程の編成方法 ・教育課程評価 ・看護教育課程の編成の実施 ・看護教育における評価 ・授業評価
		E 看護教育の計画的な展開	13 対象となる学生の既習知識・経験・考え方を捉え、授業の到達目標が設定できる。 14 自己の看護観と教育観を踏まえた教材研究をし、授業内容を抽出できる。 15 授業内容を中核目標として、論理性のある順序で配列できる。 16 実習目標を達成するために、患者に必要なケアや学生の実習体験を考慮して、指導内容を抽出できる。 17 実習目標を達成するために、患者の状況と学生の実習体験を考慮して、実習指導方法を選択できる。 18 保健師等養成所指定規則と比較して、自校または、教育実習を行った養成所のカリキュラムの特徴を述べることができる。 19 自校または、教育実習を行った養成所の看護教育の現状を分析し、カリキュラム上の課題を見出すことができる。 20 授業では、学生の反応を捉えながら、教材・教具を提示し説明できる。	
			21 授業では、発問や指示、KR情報を用いて学生の思考を促し、理解内容の確認ができる。 22 学生が看護の現象について研究的態度で追求できるように、文献の検索方法や読み方を指導できる。 23 学生がケアを患者の状態に合わせて安全に実施できるように、患者のベッドサイドで、ロールモデルを示すことができる。 24 学生と患者の関係を捉えて、患者-看護師関係形成の視点から調整の必要性が判断できる。 25 学生に体験の振り返りを促し、看護として意味づけられるように発問できる。 26 学習内容が深化していくようにグループダイナミクスを活用して、カンファレンスを運営できる。	
			27 授業目標の達成についての評価結果を指導に生かすことができる。	
		F 教育実践の評価	28 指導過程を振り返り、用いた教材や指導技術について、改善点を見出すことができる。	
		G 創造的教育活動の推進	29 人々の協力を得て、教育活動を新たに考えだすことができる。	
	2 制教育調整能力と教育体	H 教育機関における危機管理	30 学習活動の中で起こりうるリスクを予測し、事故を予防するための対処方法が考えられる。	
		I 教育組織におけるチーム連携	31 臨地実習において、学習が促進するように、実習に必要な物品や実習指導者との関係を整えることができる。 32 必要に応じて、臨地実習の指導責任者や指導者との連絡や調整の時期を判断できる。	
		J 教育組織の管理	33 自分が担当している業務内容を同僚に話し、意見を求める必要性がわかる。	
Ⅲ 看護教育実践の中で研		K 専門性の向上	34 専門領域の内容に関する教材研究において、テキスト・資料の内容を批判的に検討できる。	・看護研究の意義と目的 ・文献検索 ・看護研究デザインと研究プロセス ・研究論文の読解と研究結果の活用 ・各領域の専門的研究 ・生涯学習 ・論理的思考と表現力 ・ものの見方や認識
		L 看護教育の質の評価と改善	35 困難を感じた自己の教育実践を振り返り、その実践についての新たな教育的理解を見出すことができる。	
		M 継続学習	36 専門領域の看護学研究の動向を把握し、追求したいテーマを見出すことができる。 37 看護教員として自己のあり方を洞察し、課題を見出すことができる。 38 専門領域の看護実践力を高めるために、実践的な内容に関する研修を続けていくことができる。	

—— 専門分野
 —— 基礎分野・教育分野
 その他（関連分野）

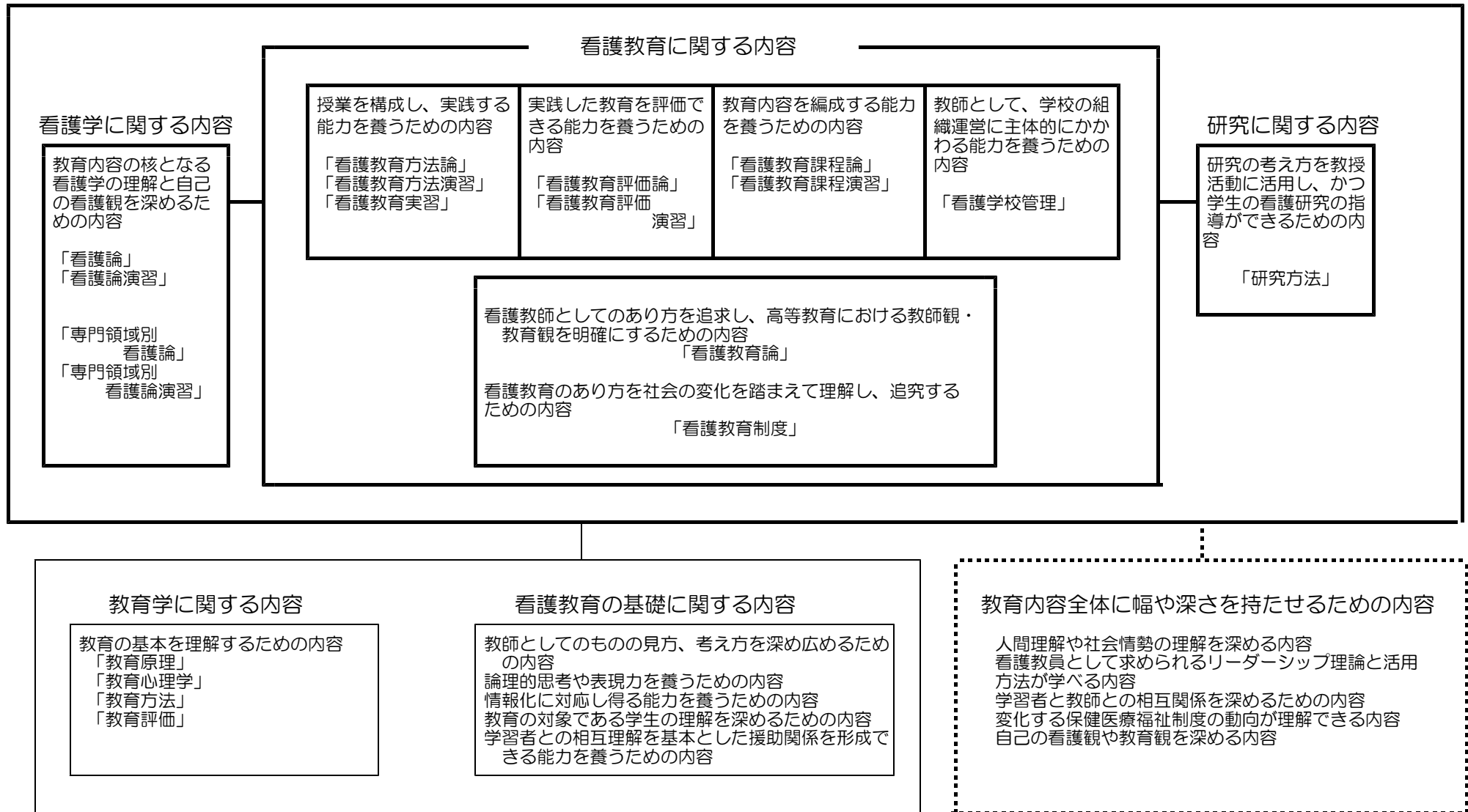


図2 教育内容の構造

表3 教育内容一覧

＜基礎分野＞ 看護教員として必要な基礎知識を学ぶ。

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
看護教育の基盤	ものの見方や考え方を広げ、教育の対象である学習者の理解を深める。	＜授業科目の例＞ 論理学 哲学 情報科学 倫理学、生命倫理 青年心理学、社会心理学 人間関係論 比較文化論、文化人類学等	60	4	＜教育内容＞ ・論理的思考と表現力を養うための内容 ・ものの見方や認識について理解するための内容 ・情報化に対応し得る能力を養うための内容 ・青年期である学生の価値観や信条・文化を理解するための内容 ・学習者との相互理解を基本とした援助関係を形成できる能力を養うための内容

＜教育分野＞（教育に関する分野） 教育の原理を系統的に学ぶ。

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
教育の基盤	教育の本質、教育方法、技術 学習過程、教育評価の基本的理論を学ぶ。		90	4	
		教育原理			・教育の本質 ・教育の目的 ・教育の歴史 ・教育の内容（教育内容と教育課程） ・教育制度
		教育心理学			・成長発達に伴う学習者の心理の理解 ・学習者の個別的理解 評価的理解 共感的理解 ・学級集団の理解 ・学習理論と学習指導の方法 ・学習過程とそれに関与する心理学的要素
		教育評価			・教育評価の意義と機能 ・教育目標の分類体系とその活用 ・評価の種類 ・評価用具の信頼性と妥当性
		教育方法			・教育方法のとらえ方 ・教授－学習理論の変遷と現状の理解 行動主義による学習観、認知心理学による学習観、 状況論的学習観 ・工学的アプローチと羅生門的アプローチの理解 ・教授－学習方法の原則の理解とその活用方法 ・教授－学習過程の理解 ・教材研究の知識と活用方法 ・指導技術の知識と活用方法 ・授業の評価の方法

＜専門分野＞（看護に関する分野） 看護学の教授、学習活動に関する理論を学ぶ。

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
看護論	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、自己の看護観を明確にする。	看護論	30	1	・看護の定義とその変遷 ・「人間」「健康」「環境」「看護」の概念の明確化
		看護論演習	30	1	・看護師の役割と専門性 ・看護活動の場と対象のニーズ ・生命倫理や人権意識と看護 ・自己の看護実践の振り返りからの看護観の明確化
看護教育学	看護教育の目的、内容、方法などの基本理論を学び、看護教育のあり方について考える。	看護教育論	15	1	・看護教育を支える法制度と看護教育の現状 ・看護教育を取り巻く環境の変化 ・看護教育における倫理の理解 ・看護教育における教師の役割と求められる資質 ・看護教員として果たすべき責務と業務の範囲 ・看護基礎教育と生涯教育
	看護教育制度の変遷と現在の教育制度について理解する。	看護教育制度	15	1	・看護教育制度の成り立ちと変遷 ・現在の看護教育制度 ・現代の看護教育の問題点と将来の展望
看護教育課程	看護教育課程編成の基本的な考え方を学び、看護学全体の構造を理解する。	看護教育課程論	45	2	・教育課程の基礎理論の理解 ・看護教育課程の理解 看護教育制度からみた教育課程の理解 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の理解 ・看護教育課程の編成方法の理解 統合分野の考え方 統合分野における教育内容とその方法の理解 ・教育課程評価の考え方と方法

	看護教育課程編成のプロセスを学び、看護師教育のあり方を理解する。	看護教育課程演習	60	2	- 看護教育課程の編成の実際 - 看護教育のニーズと制約の考え方と実際 - 教育理念の考え方と実際 - 期待する卒業生像の考え方と実際 - 教育目的、教育目標の考え方と実際 - 教育内容の抽出の考え方と実際 - 教育内容の組織化の考え方と実際 - 看護教育課程の課題
看護教育方法	学習指導計画、教材作成について学び、これを活用して講義、演習、実習等における展開方法を学ぶ。	看護教育方法論	90	3	- 看護教育における教授－学習活動の成立 - 看護教育における教材と教材研究 - 教材研究の過程 - 看護技術教育における教材の精選 - 臨地実習における学習者の経験の教材化 - 看護教育における技術教育および問題解決能力、「統合」する力を育成する方法 - 看護技術力を促す教育方法 - 思考過程を促す教育方法 「統合」する力を育てる教育方法 - 看護教育における教授学習計画作成の考え方 - 講義、演習、臨地実習指導案作成の考え方 - 教育指導技術の種類と特徴 - 授業評価の考え方（講義、演習、臨地実習）
	学習指導計画、指導案を作成し、模擬授業を行い（実習指導を含む）、その結果を考慮し看護教育方法を身につける。	看護教育方法演習	90	3	- 単元の学習指導計画の作成の実際 - 講義の指導案作成 - 演習（カンファレンス、技術演習）指導案の作成 - 臨地実習の学習指導計画および指導案の作成 - 授業のリフレクションによる自己の課題の明確化
	看護教育の理論と技術を実際に適用し、教育方法や教師のあり方を学ぶ。	看護教育実習	90	2	- 看護学生の理解の実際 - 講義または演習の指導の実際 - 臨地実習指導の実際 - 看護教師のあり方の理解
看護教育演習	各領域別看護における内容とその構造を理解する。	専門領域別看護論	15	1	在宅看護、国際看護、災害看護、医療安全、看護管理の概要と構造の理解
	各専門領域別看護の教育内容、教育方法について学ぶ。 （選択制） （統合分野を含む専門領域から一領域を選択）	専門領域別看護論演習	60	2	- 各専門領域の概要と構造の理解 - 各領域の専門的研究に対する文献等のクリティークからの教育内容の明確化 - 各領域の看護実践の振り返りと看護教育に必要な教育内容や教育方法の明確化
看護教育評価	看護教育内容の評価方法を理解し、その適用について学ぶ。	看護教育評価論	30	1	- 看護教育における評価の目的と機能 - 看護教育における評価目標設定と評価基準 - 看護教育における授業内容と評価用具 - 看護教育における授業の評価計画 - 看護教育評価の現状と課題
	看護技術評価を作成し、看護教育評価の理解を深める。	看護教育評価演習	30	1	- 看護技術における評価規準と評価基準の作成の実際 - 看護技術の評価方法の実際
研究	看護教育における研究の意義を理解し、研究結果の教育活動への活用や看護研究の指導方法を学ぶ。	研究方法	60	2	- 看護研究の意義と目的 - 文献検索の意義と方法 - 看護研究デザインと研究プロセスの理解 - 研究論文の読解と研究結果の活用 - 学生が事例研究を学ぶ意義と指導方法 - 看護学における研究の現状と課題
看護学校経営	看護学校の組織運営の特性と管理のあり方を学ぶ。	看護学校管理	15	1	- 学校管理の基本 - 看護学校運営に関する指導要領及び手引きの理解 - 看護学校経営と組織運営の特性 - 学校管理における教員の役割 - 看護学校における管理の実際 （人事管理、学級管理、事務管理、図書管理、施設・物品管理、危機管理、情報管理など） - 看護学校運営の評価と今後の課題

＜その他＞

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
	看護教員に必要と思われる教育内容を学ぶ。	＜授業科目の例＞ 民俗学 身体論 生命倫理 医療経済論 健康政策論 リーダーシップ論 コミュニケーション論 カウンセリング論 キャリアアップ論 等	30	2	＜教育内容＞ - 人間理解や社会情勢の理解を深める内容 - 看護教員として求められるリーダーシップ理論と活用方法が学べる内容 - 学習者と教師の相互理解を深めるための内容 - 変化する保健医療福祉制度の動向が理解できる内容 - 自己の看護観や教育観を深める内容 ＊各都道府県の特徴を生かして科目設定する。